

2015/10/31

11・1 全国集会ニュース NO.6

—福島をくり返さない！—

STOP伊方原発再稼働！11・1 全国集会 in 松山

とき 11月1日(日) 11:50~プレ企画スタート
12:30~16:00

ところ 松山市堀之内やすらぎ広場

翌日の11月2日10時から、中村知事宛に「請願」提出

請願法によるものです。愛媛県庁中央入口(ドーム屋根の前)に集まってください。請願事項は、再稼働同意を表明した知事に翻意を促し、同意撤回と四電と

の事前協議了解の撤回を求めます。1日の集会決議も添付します。請願書は、伊方原発をとめる会で文書を用意し、氏名と住所を記していただきます。

集会を機に菅直人・広瀬隆の対談も

1日 15:30 から、原発をめぐって広瀬隆・菅直人対談も予定されるそうです。(世話人の方からの連絡)

【再度のお願い】ハンドマイクでコールする人が決定的に不足です。各県・各地から、ぜひ、ハンドマイクと担当者をお願いします。

デモの先頭には、10月15日に亡くなった近藤誠さん(伊方原発運転差止訴訟原告共同代表、伊方原発反対八国連絡協議会)の遺影も並びます。2Pに近藤さんの亡くなる4日前の訴えを掲載します。

写真は2015年10月11日、伊方集会で発言する近藤さん。



プレ企画も充実 ぜひ早くお越しください！

- 11:50 <プレ企画スタート>
うた: トレインズ
- 12:00 脱原発で奮闘する各地からの1分スピーチ
泊、大間、女川、福島、志賀、福井、島根、川内から
- 12:15 吉岡 斉(原子力市民委員会、元政府事故調委員)スピーチ
広瀬 隆(作家)スピーチ
..... 開会
- 12:30 開会挨拶(草薙順一 伊方原発をとめる会事務局長)
- 12:35~55 トークライブ = 「おしどりマコ・ケン」
(よしもとの「まんざい」芸人。原発問題に詳しく脱原発で奮闘)
<協賛団体アピール>
- 13:00 鎌田慧 (さようなら原発1000万人アクション)
長瀬文雄(原発をなくす全国連絡会)
ミサオ・レッドウルフ(首都圏反原発連合)
柳田真(再稼働阻止全国ネットワーク)
<福島および地元からの報告>
- 13:28 菅野みずえ(福島から岡山県に避難した方)
根本敬 (福島農民連会長)
中川創太(伊方原発運転差止訴訟弁護団事務局長)
南予連絡会(八幡浜:齊間淳子、遠藤綾)
<各方面からのスピーチ>
- 13:50 (原子力市民委員会の吉岡斉氏紹介)
政党・国会議員からのメッセージ
吉田忠智(社民)、笠井亮(共産)、菅直人(民主)
- 14:05 外京ゆり(原発をなくし自然エネルギーを推進する高知県民連)
- 14:10 伊方原発をとめる会事務局提案(和田幸 事務局次長)
- 14:15 決議文読み上げ・採択(中川理津子 コープ自然派しこく)
「原発再稼働 ゆるさん！」のプラカードアピール(一斉に)
- 14:20 閉会挨拶(須藤昭男、伊方原発をとめる会共同代表の一人)
- 14:25 デモ説明(大原英記 愛媛県平和運動センター)
- 14:30 デモ出発 2コース
- 16:00 (短いコースは 15:30 ころ終了か) 出発地点にもどり解散

【主催】 伊方原発をとめる会

〒790-0003 愛媛県松山市三番町5-2-3 ハヤシビル3F
電話089-948-9990 FAX 089-948-9991
ホームページ <http://www.ikata-tomeru.jp>

伊方集会(10月11日)での近藤誠さんの発言

元『南海日日新聞』の記者の近藤誠さん(伊方原発反対八西連絡協議会事務局)が10月15日、肝不全のため亡くなりました。原発建設前から一貫して伊方原発反対運動を行ない、伊方原発1～3号炉運転差止請求訴訟、伊方原発運転差止訴訟では、ともに原告共同代表として、原発は人類と共存できないと主張しました。近藤さんは、亡くなる4日前の11日、入院先から伊方原発ゲート前の集会に参加し、声を絞って廃炉を訴えました。

本日は皆さん各地から駆けつけていただきまして本当にありがとうございます。ありがとうございますと言いましても、皆さんと私は同じ立場でございますが。

本日、四国電力の皆さんに、先ほどからずっと参加者の多くの皆さんから伊方原発の危険性と地域の安全を何とか守りたい、そのような思いがずっと連綿と語られたと思います。それはまさに私たち地域の住民の同じ願いそのものであります。

四国電力の皆さんは、いまは残念ながら、なんとんでも利益を確保しようと、あらゆるものを無視して邁進しておられますけれども、しかしやはり皆さんの中には、原発の推進に大きな疑問を持った方も私はたくさんおられると、そのように信じております。そのような皆さんとともに、今後、やはり原発なしに暮らしていける、そのような地域、社会づくりをとものにぜひ進めていただくことを、地域の住民として述べたいと思います。

それからもう一言、いま30キロ圏内に四国電力の皆さんが、いわゆる新規制基準に合格したと称する説明書を配っておられる、あるいは郵送しておられます。それを一応子どもも読ませていただきましたけれども、そこには残念ながら、まったく福島事故の再発を防ぐそのような手立てはまったくありません。

具体的に申し上げれば、耐震設計、地震についても大きなごまかし、トリックを行なうことによって、地震、活断層の耐震設計を小さく見せる。このよう

なことをまったく変えていない。1号炉、2号炉の安全審査の大きな誤りを認めることなく、そのままにして、さらに3号炉をあなた方は建設した。しかし、現実にはそのパンフレットの中にこう書いてあります。基準地震動はあらゆる要素を見て、最大の地震動である。そうちゃんと注釈までついている。しかしその最大の地震動というものをあなた方は、1号炉では200ガル、そしてその後、3号炉で473ガル、さらに570ガル、そして650ガルと、次々とそのような数字が変わっていきました。それはいかにあなた方が設定していた最大の基準地震動といわれるものが、いかに科学的に根拠のないだらめなものであった、恣意的なものであるかということを実証的に実証しています。誰が見ても、それは明らかです。それにも関わらずあなた方は、それをあたかもですね、科学的なものであるかのように未だに装っている。

残念ながら、あなた方だけが悪いわけじゃない。それに対する専門委員会、原子力規制委員会、すべてがそれを認めている。こういう皆さん一体となった国民騙し、住民騙しのトリックによって、あなた方は強引に手続きを進めようとしている。

さらに具体的にいえば、いちばん最後に誰もがいちばんいま問題としている住民の避難。いざ事故が起きた場合、あなた方はメルトダウンをすると平然と言って、それに対する対策をつくるんだと、つくっていると言っていますが、肝心要のいざそれが起きた場合に住民はどうする。住民はどこに逃げた

らしい、どうすればいい。避難の「避」の字も、今回のあなた方の3号炉の説明書のなかには、まったくない。

つまり、避難については、すべてあなた方は責任を持たない。県も責任を持たない。四国電力は責任を持たない。そして政府は、安倍首相が「国が責任を取る」と言っているが、あの安倍首相の言った言葉は、たんにこれまでの原子力防災計画のなかで、すでに定められた文書の中の言葉を言い換えているだけにすぎません。

実際に、先程来から指摘されてきたように、いざ事故になったときに、あなた方はどのように責任を持つことができるのか。安倍やあなた方社員が、いったいどうやって、この膨大な人々が逃げ惑うその状態、そしてその結果について、あなた方はどのような責任を実際自分で取るというのか。それはまったく取れない。誰も取ることはできない。にもかかわらず、それがあたかも取れるかのように、あなた方はいま装い、それを強引に進めようとしている。

私たちはですね、ぜったいこのようなあなた方のトリックやごまかし、その中でこれからの生活を営んでいくことは、とてもできません。私たちはなんとしても再稼働を阻止して、そして原発のない社会づくりを私たちは進めていく。また電力会社の皆さんとともに進めていく。それしか、今後私たちは、自分たちの子どもを守り、自分たちの子孫を守っていく方法はないと私たちは確信しています。四国電力の皆さんも含めて、私たちは原発をなくす社会づくりをしたいと思います。

そして安倍政権、これをなんとしても打ち倒す。まったく新たな政権によって、あなた方がこれまでつくってきた、いわゆる安保法、戦争にむかうあらゆる体制をひっくり返していく。私たちはそのことを、それぞれみんなが手を結んで、手を繋いでそれを進めていく。そのことを私たちは皆さんに、はっきりと断言し、宣言したいと思います。以上です。